

第3学年 進路通信

令和6年度(2024年度)
第3学年 進路係 第8号
令和6年4月26日(金)

勉強法も考えてみましょう

3年生になったので、そろそろ勉強法も考えていきましょう。

前号の
続き!



② 「インプット」から「アウトプット」へ

「勉強＝暗記」と考えている人も意外と多いと思います。確かに暗記は避けては通れないし、最低限のことを記憶しておかないと、応用はきかないでしょう。学校の定期テストでは教科書の穴埋め問題が結構出ることもあるので、教科書に書いてあることをそのまま覚えてテストに臨めば、十分乗り切れるかもしれません。しかし、暗記だけが全てではありません。まさにこの「暗記」が「インプット」の勉強で、入試ではまず通用しません。ご存じのとおり、入試で教科書と同じ文章が試験に出るわけがありませんし、頭の中に入っている知識の量で合否が決まるわけでもありません。入学試験で求められている能力は、「知っている知識を使っていかにして問題を解決し、その解決法を論理的に説明することができるか」なのです。だから、単語帳をただ丸暗記するのではなく、英作文にも挑戦してみるとか、日本史の教科書を読んだら過去問でも解いてみるとか、「インプット」から「アウトプット」を意識した勉強にしてみましょう。それが賢く合理的な勉強というものです。

「上手な勉強法」のまとめ

- * 完ぺきにやろうとするのは非効率的、まずは全体像をつかみましょう。
- * 知識の量(インプット)だけで合否は決まらない。「アウトプット」を意識した勉強をしましょう。



③ 何事もスタートが大切!

平等に与えられた時間を無駄遣い
しないように心がけてください。

* 授業を大切に

学習の基本は授業です。人の話をどれだけ集中して聞くことができるか。人の話が聞けないと進歩・成長は望めません。これを達成するには忍耐力が必要です。さらに積極的に参加することが大切です。受け身では楽しくありません。授業を自分のものにできるようにどんどん発言をして、自信を深めましょう。

* 毎日、学習する習慣をつけよう

人は学習するまでに時間がかかるものです。でも、毎日1時間でもやる習慣がつけば勉強の楽しさがわかるというものです。机に向かってやるだけが勉強ではありません。新聞やニュースに触れて世の中の動きを知ることや、そのために新聞を読むことで漢字を知ることでも勉強です。授業の復習にも心がけましょう。

* 提出物・宿題は良いものをていねいに

提出物は期限を守り、提出するのはあたりまえ。大切なことは良いものを出すこと。自分の思いがしっかり伝わるように努力しましょう。

* 自分を知る

自分の将来を考えることは生涯学習につながります。そのためには、自分はどんな仕事に向いているのだろうか。どんな仕事ならできるのだろうかということを考える必要があります。でも、その前に「自分はどんな人間なのか。自分ができそうなことは何か。」自分の適性や興味・関心を知ることが大切です。職場体験で発見した自分があったように、潜在的に持っている能力があるかも知れません。可能性を広げて自分ができそうなことを考えてみましょう。

高等学校の種類と学習内容

I 全日制 主に平日の昼間に学習します。

1 普通科

共通教科の科目を中心に学ぶ学科です。

<普通科>

国語、数学、外国語（英語）、保健体育、家庭などといった共通教科の科目の学習を中心に学習します。また、学校行事を充実させたり、体験学習を積極的に取り入れたりして多彩な教育活動を展開しています。さらに、単位制普通科、フレキシブルスクール、クリエイティブスクールなど、一人ひとりの学習希望や進路希望に応じた学校もあります。

◇学年制普通科

中学校と同じように、多くの科目についてクラス単位で学び1学年ずつ進級していきます。各学校では特色に応じた選択科目も設置しています。

○クリエイティブスクール

学習への意欲を高め、「わかる授業」の展開や「体験からの学び」を推進するため、1クラス30人以下での展開等の新たなしくみを導入しています。入学者選抜では、学ぶ意欲を重視した選考を行います。

○インクルーシブ教育実践推進校

共生社会の実現をめざし、知的障害のある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するとともに、すべての生徒が共に学び相互に理解を深める教育に取り組みます。

◇単位制普通科

3年間で必要な単位数を修得することで卒業できます。共通教科の科目を中心に、自分の興味・関心、進路希望にあわせて科目を選択し、学習することができる高校もあります。

○フレキシブルスクール

単位制のしくみを生かし、一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに応じた学習ができます。1日8時間や12時間の授業展開から、午前・午後・夜間それぞれの時間帯から選択できる柔軟なシステムです。他校との学校間連携や社会人とともに学ぶ講座も設置しています。

2 専門学科

本県の産業を支える将来のスペシャリストとして必要な専門的知識・技術を身に付けるため、それぞれの専門分野に関する科目を学習します。各専門科目の学習では、普通科と比べて、実習などの体験学習が多く組み込まれているほか、大学や研究機関、企業と連携した授業も行われています。また、専門科目の学習をとおして、多くの生徒がさまざまな資格取得をしています。専門学科には、産業教育系（農業、工業、商業、水産、家庭、福祉、総合産業）と個性教育系（体育、音楽、美術、国際）があります。

3 総合学科

幅広い共通教科の科目と専門科目の中から各自が特色ある科目を選択して、単位制のしくみによって学びます。自分の個性・適性を発見し、将来の進路を考える学習を重視し、原則として入学年次に全員が「産業社会と人間」という科目を学びます。体験的な学習や実習を重視した授業を展開します。

II 定時制

夜間その他の特別な時間または時期に4年間学習します。なお、3年で卒業できる仕組みのある学校もあります。また、卒業時に与えられる資格は、全日制と同じです。多くの学校では、17時30分ごろに授業がはじまり、21時ごろに授業が終わります。そのあと、部活動などがあります。

午前部・午後部のある県立横浜明朋高校と県立相模向陽館高校、午前、午後、夜間がある横浜市立横浜総合高校やフレキシブルスクールの県立川崎高校、県立厚木清南高校もあります。

III 通信制

主に通信教育によって学習します。学習の仕方によっては、3年で卒業できます。また、卒業時に与えられる資格は、全日制、定時制と同じです。また、毎日登校してきめ細かな指導を受けることができたり、ITを活用して自宅での学習を中心に学んだりすることもできる県立横浜修悠館高校もあります。

通級による指導

通常の学級に在籍し、大半の授業を通常の学級で受けつつ、障害などによる学習上・生活上の困難のある生徒に対し、主体的に改善・克服するために行う特別の指導を行います。